

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | | |
|----------------|------------------------|----|--------|----|
| ○事業所名 | 学童ねあらい | | | |
| ○保護者評価実施期間 | 6年 10月 25日 ～ 6年 11月 8日 | | | |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 35 | (回答者数) | 16 |
| ○従業者評価実施期間 | 6年 10月 25日 ～ 6年 11月 1日 | | | |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 9 | (回答者数) | 6 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 7年 3月 28日 | | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|---|--|
| 1 | ・中庭やグラウンド等の広い屋外、様々な種類の感覚統合遊具等が整い、天候に影響されことなく思いきりあそぶことができる。 | ・天気の良い日は、できるだけ外であそぶように促すが、基本的には児童の思い・自主性を尊重し自由時間の過ごし場所を委ねている。たき火や飯ごう炊飯、プール活動など、敷地内で日常では行えない活動をプログラムとし整えている。 | ・外あそびの空間で、児童達が自由に使用できる乗り物やボール等の教材教具を整えること。 ・感覚統合遊具の定期的なローテーションを継続して実施する（OTを中心に行っている）。 |
| 2 | ・OT、ST、心理士などの専門職が常勤し、児童のあらわれや課題などを共有し専門的視点から支援の助言や提言を得ることができる。 | ・児童の活動時、客観的にありのままの姿を見てもらい、その様子から支援の具体的な助言や提言を得る。 | ・家庭や学校の生活場面においても取り組みそうなことを、保護者と共に共有し児童の支援に活用していく。 |
| 3 | ・やってみたい活動やあそびを友達同士で決めるなど、児童の自主性を尊重している。 | ・集団あそび、運動あそびなどベースは整えながらも、大人数で活動する内容を児童が決めて活動している。また、おやつも児童達のリクエストにできる限り応えて提供している。 | ・児童の自主性、あらわれについて保護者と共有し児童の支援にあたる。 ・活動内容を決めることはいわば多数決であり、参加したくない児童の気持ちを汲み取り、その児童の活動をや居場所を保証すること。 |

| | 事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|---|---|
| 1 | ・建物の老朽化。 | ・予算的な面で課題を負うところが大きいと考える。手作りの装飾、児童の描画や造形作品などを掲示・展示し建物内を明るく雰囲気としている。 | ・利用者の安心、安全を保障するためには設備の改善箇所についての要求を行っていく。 |
| 2 | ・スタッフの育成や人的な充実。 | ・限られた時間内での研修参加を工面すること。 ・人材発掘、育成の在り方について柔軟な発想を展開する。研修等の機会に積極的に参加し、支援者としての質を高めていく。 | ・研修は積極的に参加する。研修日程を把握できた時点で事業所の職員体制を整えておく。 ・教育、福祉系学校の学生アルバイトやボランティアを今まで以上に募集をかける。 |
| 3 | ・他事業所との交流機会に乏しいこと。 | ・現段階で療育プログラムとして具体的に位置付いていない。 | ・まずは、本事業所を利用している児童で、他の事業所も利用している事業所にアポイントメントを取る。顔なじみの児童同士が少数でもいれば友達同士のやり取りや遊びの展開や広がりもスムーズになると考える。 |